

# 志小安全・防災だより



R元.12.16 NO.33  
安全・防災担当：早坂 潤

## 地域を学ぶ活動から防災への意識も育ってほしいです

5日に、4年生の子どもたちは、漁協志津川支所青年部の皆様の協力をいただきながら、ワカメの種ばさみ体験を行いました。子どもたちがロープにおおよそ50センチメートル間隔でワカメの種を挟んでいく様子はミヤギテレビのニュースや三陸新報に取り上げられ、種を挟むときに縄をねじって隙間を作るために力が必要なことや、おいしいワカメを育てるための漁師さんの苦勞に気付いたことを堂々と話していた姿が見られました。漁協青年部の方の話によると、東日本大震災時に、種付け用のロープがほとんど流されてしまい、これまで使っていたものとは別のロープを韓国から取り寄せたそうです。ただ、このロープは重くてさらに太かったため、作業が大変だった話を聞かせていただきました。今使っているロープは、中に鉛が入っていてワカメの種を丁度よい具合に海に沈めることができるそうです。子どもたちが種付けをしたワカメは、南三陸ホテル観洋の近くで育てられ、来年の3月頃には1.5メートルにも成長するそうです。この日は、男子と女子が第一便、第二便のモアイバスに分かれての移動のため、先に行ったバスを第二便の女子はバスが戻って来るのを待たなければなりません。その間、漁協の方に水揚げされたカキの加工場も見せていただきました。

ワカメの種です。志津川湾で大きく成長します！



## 「雪むし」、「雪っこ」、「雪ばばあ」、本当の名前は何でしょう？

先週は11月上旬並みの気温が続き、子どもたちは外で元気に遊ぶことができました。放課後1年生の子どもたちが「雪んこつかまえた！」と言って小さな虫を見せてくれました。この小さな虫はこの辺りでは「雪んこ」「雪虫」と呼ばれ冬の暖かい日に飛び回る虫だそうです。この虫が飛び始めるともうじき雪が降ると言われています。地域の方は「雪ばばあ」と言っていました。本当の名前は何かと言うのでしょうか。



こんな小さな虫です